

一般質問

川下
議員

○移住・定住及び二地域住居の推進について

【質】二地域居住の推進によって市にはどのようなメリットがあるのか伺います。

【政策企画課長】空き家の活用、事業活動の担い手確保、滞在期間中の日常生活や観光・交流による地域活性化などが考えられます。

【質】発信力のある人や著名人に松浦市を選んでもらうようお声掛けすることでもメリットが大きいと思います。すでに松浦市と縁のある方、例えば漫画『アンゴルモア』の作者など良いのではないのでしょうか。市長の考えを伺います。

【市長】著名人の方に、松浦市に興味を持っていただく、知っていただくということが何よりも重要だろうと思いますので、チャンスがあれば、しっかりとつなげられるように努力を続けたいと思っています。

○認知症の方がより過ごしやすい社会の構築を目指して

【質】認知症の方がより過ごしやすい社会を作るためには当事者や支える

家族だけではなく、いわゆる一般の方々の認知症に対する正しい知識や体験の共有が必要ではないかと考える。市の取り組みを伺います。

【長寿介護課長】例年、小中高校生を含め、市民を対象とした認知症サポーター養成講座を開催しています。

また認知症に関する映画の上映会の開催や、市立図書館での関係図書の展示、令和6年度においては松浦水軍まつり会場にブースを出展し、認知症の周知・啓発活動を行いました。

【質】認知症の方から自分でできることを奪わず支援してほしいことだけを支援するというスタンスが大事と考える。これから若年性も含め認知症の方が社会の中で増えていく中で、より一般の方の知識取得や支援体験の共有が必要になります。一般の方が参加できる支援の模擬体験の実施を提案したいが、考えを伺います。

【長寿介護課長】一般の方への周知啓発活動については、さまざまな場面や認知症の方の役を設定した疑似体験を組み込んだ、認知症サポーター養成講座を行っています。ご提案も踏まえ、さまざまなシチュエーションについて検討していきたいと思えます。

一般質問

立
鈴
議員

○定期路線バス廃止に伴う利便性及び登下校児童・生徒への配慮について

【質】定期路線バス廃止による地域の利便性および登下校時の児童・生徒への配慮が大変重要である。昨年12月議会において、定期路線バスの空白地域がいまだ生じていると質問した。山間地集落の、特に高齢者の方は、病院や買い物に行くために、タクシーを利用するしかない。大変な負担となる。子どもたちの通学手段もしっかり確保していただきたいと考えるが、児童・生徒の登下校時間帯とバスの時刻の整合性について、教育委員会は確認しているのか伺いたい。

【学校教育課長】新規バス路線への変更に伴う児童生徒の登下校への影響については、上志佐小学校と志佐中学校両校に確認しました。上志佐小学校の児童および特認校制度を利用しての児童については、登下校時の通学に支障はないと判断しているとのことでした。

また、上志佐地区から志佐中学校へバス通学する生徒については、登校時は支障はなく、下校時に部活動

を早めに切り上げる必要が出てくるが、全体としてはよく配慮されているとのことでした。

○特認校制度について

【質】特認校制度について、一昨年厳しい真冬に北海道北斗市において、大変意義ある研修を深めることができた。

生まれつき非常に人見知りをする子や、人前で非常に緊張する子たちが特認校制度により、のどかなところで伸び伸びと活発に成長できるように育成することは大事だと思っている。少子化だから、全国的なことだから統廃合してもかわらないという安易な考えは許されない。上志佐小学校は、特認校制度の導入を機に存続ができればと思っている。教育長の考えを伺いたい。

※特認校制度：従来の通学区域を残したまま、市内のどこからでも就学できる制度

【教育長】上志佐小学校は自然豊かな環境の中で、さまざまな体験活動や小集団による教え合いや学び合い、さらには一人一人の活躍の場の多さなど小規模校ならではの教育環境が充実しています。コミュニケーション・スキルとして学校を支え応援する保護者、地域住民の連携、協力も強い地区です。特認校である上志佐小学校のさらなる周知、広報に努めていきたいと考えています。